

総会にて新役員さん決まる

さる四月一七日に寺総会が開催されました。総代の澤泰人さんと、役員の高ます子さんが勇退されました。お疲れ様でした。お二人にはこれからもご指導とご助言をよろしくお願いいたします。そして新総代は田中三郎さんにお引き受けいただくことになりました。どうぞよろしくお願ひいたし増す。新役員選挙にあたっては、若い人も含め多くの人に主体的にお寺のことに関わっていただきたいという説明があり、ただ女性を選挙でえらぶことはなかなか難しいことから、住職と総代が澤智恵子さんを推薦し、二年後を目途に女性の役員さんの選考をあらためて考えたいと説明がありました

た。また、男性は選挙の結果、横井豊さんが選ばれました。みなさまよろしくお願ひいたします。なお、新型コロナウイルス禍が続いています。今年度の法要につきましても安全を最優先に進めてまいりたいと思います。またお速夜参りは引き続き老僧が本堂にてお勤めいたしますのでご了承ください。(住職)

新緑の候となり野山や我が家の窓辺には穏かな光に包まれています。この光ははるかな極楽世界から私に届いてくださったお恵みとして仏法に遇わせていただけた喜びを味あわせていただきましたましよう。



ご縁ご縁。さまざまなつながりがあって私がある、あなたがいなければ私もない。なまんだぶ。

御和讃を頂く

慈光はるかにかむらしめ

光のいたるところには

法喜を得とゾノベ給う

大安慰ヲ帰命せよ

弥陀和讃

- 五月(皐月) 予定
- 一日(土) 南組役員会(住職)
- 五日(祝) 一日もの日

なお、花まつりは中止

二二日(土) お講(降誕会)

二四日(月) 寺族婦人会役員会

二五日(火) 教区鑽仰会理事会

宗祖讃仰の

新しい歌ができました

本願寺新報によりますと、兼ねて公募中の親鸞聖人生誕八五〇年

立教開宗八百年慶讃法要記念の愛唱歌が春の法要の四月十五日に披露されました。

一二六二点の応募から最優秀には東京都の童話作家山口タオさんの「みんなの花になれ」(下段)が選ばれました。作曲はご存知加藤登紀子さんで、加藤さん自ら熱唱披露され参拝者の皆さんはうっとり聞き惚れられたとのことでした。

なお、出版部では近々にビデオ、DVDなどで発売の予定とのことで、私もさっそく予約しましたので手に入りましたら(コロナが落ち着いたら)皆さんと愛唱い

たしまししょう。乞ご期待。

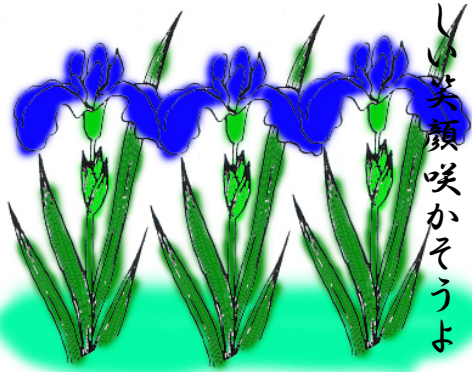
みんな花になれ

作詞 山口タオ

作曲 加藤登紀子

あなたが笑うと 花になる
見ている私も 花になる
いいことあるよ 笑ったら
誰でも花になれるんだ
空を見上げる花のように
笑顔いっぱい咲かそうよ
笑顔いっぱい咲かそうよ

あなたが泣いたら 雨になる
見ている私も 雨になる
いいんだいいんだ 泣いたって
雨がふるから 花が咲く
風によりそう花のように
優しい笑顔が咲くんだよ
風に寄りそう花のように
やさしい笑顔が咲くんだよ
やさしい笑顔が咲くんだよ



絶景！お寺めぐり(龍潭寺)

だるま寺として知られる彦根の龍潭寺にお参りしました。井伊家の菩提寺で浜名湖の近くから移設された臨済宗妙心寺派のお寺だそうです。入堂し仏さまに礼拝を済ませて振り返ると、気持ちの良い枯山水の庭が広がっていました。平安時代に中国に渡った高僧の故事にちなんで海に浮かぶ島や小船が配置され、観音様がおられる補陀落山を表現しているのだそうです。爽やかな微風にカジカ蛙が楽しそうに歌い、時が経つのを忘れそうでした。さらに進むと大きな達磨さんがお出迎え(何だか私に似ていますね)。四月のはじめには毎年「だるままつり」が開かれてたくさんの達磨さんが並べられるそうですよ。お参りあと、お猿に先導されて佐和山に登ってみました。彦根城や荒神山、琵琶湖の対岸まで一望でき、まさに絶景を堪能しました。(住職)



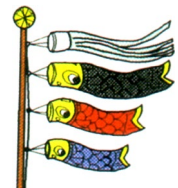
だるま寺の達磨さんと

5月(皐月)

こどもの日花祭り

むかしも昔

三千年



暮らしの中の仏教語

『中道』

最近、政治家の間でよく中道とか中道主義と言う言葉をよく聞きますが、この言葉を始めていわれたのは実はお釈迦さまなのです。当時のインドでは、自分のしたい放題に振舞う快樂主義と、自分を徹底的に痛めつける苦行主義が横行していました、

この両極端な生き方では真の幸福は得られず、そのどちらにも偏らない生き方こそ正しい道だとされたのです。

そして、お釈迦さまのすごいところは、この両方の生活を実際に体験してみて『偏りのない生き方こそ真実の道すなわち中道こそ仏の道』だと実証されたのです。かの徳川家康も『人の一生は重き荷を背負いて山路を行くが如しそぐべからずとかたつています。』

老僧雑感

子供の日と花まつり」の歩み

「無理が通れば道理引つ込む」でコロナの猛威にさすがのお釈迦様も引つ込まれ、今年は子供の日花祭りは中止とのことであたいへん残念でない。

この行事は、昭和三八年に私の母「えい」の一周忌に兄の大橋貞三さんと私が白象を作って区内を行進したのが始まりです。以来、年中行事となりほぼ六〇年、しかもこの日に雨が降った記憶がない。初夏ののかな田園を、四〇人ほどいた子供たちと白象が行進すると、田植中(当時は五、六月が田植の真っ最中だった)の皆さんが手を振ってくださったが今その光景は見られない。このごろになって時々昔のアルバムを取り出して眺めていると、今では『良いおっさんおばさん』のあどけなく可愛い笑顔に思わず私まで楽しくなってくるのです。

昔も昔三千年

花さきにおう春八日

響きわたった一声は

天にも地にも我一人

仏教詩人

尾田惣平さんの詩

「そのはじめ」

そのはじめ
何が何でも
やらねばならぬと
心が燃える
そのうち
まあ何とか
やりさえすればと
心が揺らぐ
そのつぎは
まあええわ、
やめておこうと
心がなえる
そして
何んとまあ
傲慢のかたまりと
姿をかえる。

